

会議名	平成28年度第4回西尾市図書館協議会
日時	平成29年3月15日(水)午後3時30分～午後5時
場所	西尾市立図書館 会議室
出席者	尾崎会長、赤堀副会長、伊奈委員、山下委員、大須賀委員、石原委員、鳥山委員
市係等出席者	岩瀬教育部長、今井図書館長、原田館長補佐、生田主任主査
傍聴者	なし
<p>協議会の中で出されたことは以下のとおり。</p> <p>1 あいさつ 尾崎会長</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 平成28年度事業実績について 原田館長補佐より、読書活動の普及と施設・サービスの充実について、図書館利用状況、行事実績を説明。(資料1-1、1-2、1-3)</p> <p><b>質問</b> (図書館サービスの充実にある)プレクストークは1台だけか。また、ソフトというかCDはいくつかあるのか。 → 購入したプレクストークは1台です。CDについては、現在は一つもなく、他館から借用して使えるという対応しかできていない。</p> <p><b>質問</b> 本を選んで、その機械にCDを入れると耳で聞こえるというものか。 → サイトからデータを取り込んでCDに焼き、この機械に入れるという形になると思う。 来年度の会でお話しようと思っていたが、昔は視覚障害の方はカセットテープで聞いていたと思うが、カセットテープはかさばる、テープが伸びてしまうということがあり、デージーというものがある。デージー(DAISY: Digital Accessible Information SYstemの略)とは、CDのように焼けるようになったものがあり、それを聞くのがこの機械である。平成29年度から視覚障害者情報提供施設サピエが運用するサピエ図書館を利用していく。カセットのときは物を借りるというものだったが、デージー図書は市販されていないものが多いため、サピエ図書館に登録をし、インターネットを通して情報を直接聞いたり、ダウンロードをしてCDに焼いてこの機械で聞くということになる。</p> <p><b>質問</b> 利用者が希望を出すと、その本をサピエから持ってきてその機械で聞くということになるのか。 → はい、そうです。CDは図書館で保存することになる。この機械は、視覚障害の方は補助が認められている機器で、日常の利用のために持っていらっしゃる方もある。それを使って、CDを借りるだけで家で聞いていただくことができる。</p> <p><b>意見</b> 大活字本だが、わかりにくい場所にあり、PR不足でもあるのでせっかくこんなにあるのにもったいない。もっとPRしてほしい。他の図書館に行った時、入口に大活字本の書棚があり、そこにあれば目につくから借りてもらえるなどと思った。ここの図書館は本当に奥の方なので、例えば場所は1階の突き当りなんかいいと思うが、1階は子どもの本ばかりだし。PRする意味でも、一時的にでも置いてみたらどうか。 → 現在、館内の配架の計画を考えていて、2階上がってすぐに新着本のコーナーがあるが、その裏を大活字本にして、展示を2階カウンターのすぐ前にした方が、もっと一般の方に見てもらえるのではと思っている。4月の館内整理日に移動できるように考えている。</p> <p><b>意見</b> 広報で宣伝したほうがよい。大活字本を利用している人もあるので、あることがわ</p>	

かれば利用する人は増えると思う。

→ はい。わかりました。

**質問** 行事報告の中の「元気いっぱい子ども司書養成講座」で18人が認定とあるが、内訳、男女別や学年はどんなものか。

→ 男子もいたが女子がほとんどだった。中学生も対象だが、小学生の高学年が中心だった。

**質問** 18人が認定されたということで、認定書を受け取ったと思うが、今後の動きというか、もらって終わりなのか、何かアクションを起こして何かをしてもらうとかはあるのか。

→ 図書館のイベントに協力してもらうということはしている。また学校の方でも学校図書館で活躍してもらうというのがいい形かと思うが、第三次の子ども読書活動推進計画でも同じような意見をもらっており、積極的に図書館が声をかけていかないに来てもらえないというものがあるので、やっつけていかないといけないと思っている。

**質問** 個人情報だから、学校に連絡するのはだめなのか。

→ 今は学校には連絡していない。

**意見** 学校に連絡するというのは、本人の了解が必要ではないか。ただ、司書をとったらどんな活動ができるかということをしてPRしないとイケない。それも含めて認定をするのがよい。そうすれば自主的に何かをしてくれるかもしれない。

→ はい、ありがとうございます。

**意見** 子ども司書のことだが、講座の中の一つで、夏休み中におはなし会で読み聞かせをしてくれるのだが、それは子どもたちにとってすごくいい経験になる。とてもいいことだと思う。もっとPRしてほしい。学校にもお知らせしてあげるとよい。

**質問** それは、講座の中で子どもたちがやってくれたということか。

→ カリキュラムが色々あり、窓口で貸出返却をしたり、本の紹介やブックトークだったり、よみきかせをしたりとの全11回で図書館の仕事を体験できるようになっている。

**質問** 何回出席すると認定されるのか。

→ 8割の出席と感想文の提出で認定される。夏休み期間に集中しすぎているので、来年度はもう少しばらしたところで実施するのがいいのでは、と現在調整している。

**質問** 逆に集中したほうがよいのではないか。子どもたちは夏休みに忙しいので。

→ 補講という形で予備日が作っており、来られない人はそれに対応している。

**質問** 各館に特色をもたせた蔵書構成とあるが、具体的にはどういうことか教えてほしい。

→ 本館はまんべんなく購入し、一色は絵本と民俗関係、吉良は尾崎士郎や茨木のり子があるため歴史文学関係、幡豆は植物などの自然関係の本を入れていくというような形で、購入の際に考慮している。

**質問** 本館は総合的だと思うが、一つくらい何かないか。

→ 本館は調べ物に使う参考図書を購入している。例えば最近ではJISハンドブックを購入した。年版の毎年かならず買うものや白書系の本は、本館には必ず入っているようにしている。

## (2) 平成29年度運営計画について

今井館長より、基本方針と施策について説明。(資料2)

**意見** 平成29年度の運営計画を説明していただいたが、内容が全部横並びになっている。例えば先ほどの説明の中でプレクストークに力が入っていたように思われた。特に今年はこれだというものをゴシック体で示して頂けると良いのではないか。

→ ありがとうございます。次回の29年度第1回の協議会でこれを出す時にはそのようにさせていただきます。一色学びの館のことも大きいことですし、子ども読書活動推進計画の第三次が策定されるということも大きいです。施設面では駐車場の問題も大きいので、そのあたりをよく分かるように強調して示し、職員もそれがわかって意識して行えるようにしていきたい。

**質問** 学校図書館の充実や市の図書館との連携がどれくらいあるのかということ伺いた

い。子どもにとっては市の図書館より学校の図書館のほうが身近である。本の充実に関しては、最近新しい本が定期的に入っているが、それでもまだ足りないと思う。学校から要請があれば団体貸出をしてもらえるが、そのあたりの連携はあまりないのか。

→ 連携は密になっている。学校図書館そのものの連携というよりは、どちらかというところと授業や教科で使う本の貸出しが多い。教室にまで本が行き届かないという場合は、読み物セットというものを希望される学校に貸出ししている。学校司書の申し出で支援協力していく。

**質問** 学校によっては、定期的にクラスに20～30冊の本が来て、期間がすぎると返し、また次の本が来るというのがある。これは、いつも同じ本ではなく目新しい本があるから子どもたちが喜んで読んでいる。しかし、違う学校ではこういった本がない。それは、申し込む学校と申し込まない学校があるということか。

→ 全部の学校が申し込んでもらったら対応できるかというところと難しい。クラス数もあり、何校までという制限を設けさせていただいている。希望された学校と調整してやらせていただいている。

**意見** 学校司書によって変わる。すごく熱心な方とそうでもない方とで差がある。熱心な司書だと図書館がみるみる変わる。

**意見** 図書館の応援する体制をローテーションしないといけいない。同じところばかり行ったらいけいない。教室にある本が気楽に読めている。

**意見** 学校によっては、教室にある本は登録して無くて、市の図書館のリサイクルで出すものを学校が先にもらってそれを置いていると思う。クラスにある本はよく読むので痛むが、それくらい教室にあると読みやすいのだと思う。

**意見** 学校支援についても、全体を考えながら偏らないように、また図書館の業務の中でも大事な仕事ではないかと思うので、いろいろな意見を聞きながらやってほしい。

**意見** 気になっている言葉があって、「障害者差別」というところで差別という言葉が引っかかっており、西尾市は遅れているという話を聞いたことがある。娘が人権団体にいて、学校や市役所で講演をしている。その人から西尾ももう少し頑張れるといいねと言われている。その講演をやっても面白いのではないかと思う。NGOなので多分お金はかからないのでは。

**質問** 「障害者差別解消法」という法律はあるのですよね。この言葉の中に「差別」という言葉が入っているのですよね。

→ 正式な法律名称はもう少し文字数が多いかもしれないが、これは国の施策だったり行政の中でもこの使い方はする。ハッとする部分はあるかもしれないが、これは障害者の「害」の文字がはたしてこの「害」でいいのかどうか、ひらがなにすべきではないかという議論は同じレベルの話で、言葉の使い方の適切さ、あるいは妥当性というところの議論はあるが、配慮というものが欠けているのは許しがたいが、用語としては一定の正当性はある。この「障害者差別解消法」は共通の認識、用語として定着はしている。それがはたしてよいのかどうかというのは、施策の実施の度合い、進捗が本質的な部分であって、それを西尾市は遅れているのだと言っているのではないかと思う。確かにその部分は、充分であるというようには思っていない。まだまだこれから手厚くしていけないといけいないと思っている。その中で今までなかったものについて、手当をしていくという努力をしている。こういったことに対しての新しい試み、例えば先ほどの講演会のようなものは大変重要で、これから行なっていきたいと思っている。

**意見** 選書会議というのは図書館の内部で仕事しているような感じもするが、ベストセラーというのが短い期間であるようなものを中心にする、図書館で借りる人の要望も多いと思うが、図書館としてはぜひ、あまり読まれてはいいけれどこういった本も読んでほしいなという本も配慮していただきたい。

→ 図書館の機能自体が、今いる人達のためにも収集していくべきでもあるが、後の人のためにも保存していくという意味合いもあるので、ベストセラーばかりにはならないように、総合的な視野でいきたいと思う。

**意見** 特定な意見に偏らず総合的に、その中でも西尾の特色が出てほしいと思う。

(3) その他

生田主任主査より、一色学びの館の休館、西尾っ子読書フェスティバル、おやこ読書ノート、平成29年度図書館カレンダーについて報告。

**意見** 西尾っ子読書フェスティバルの日程である4月22日は、学校によってはPTA総会があるところが多い。

**意見** 学びの館について、ここでボランティアをしている代表として話を聞いた。その中に花井裕一郎さんという人がいた。長野県の小さな町（小布施町）の図書館が一般公募した館長で、館長になって2年くらいの間にLibrary of the Yearを受賞した。今はこの図書館の館長ではないが、その人が学びの館のアドバイザーになったということで、この人と話をしているととてもワクワクし、楽しい。花井さん曰く、今までの図書館の概念を変えましょう。今まではこうだったけど、というのはやめて、ワクワクする場所づくりをしたいので、皆さん協力してくださいと言っていた。今までボランティアとして受け身が多かったが、図書館に頼まれるから行きますとか、これをやってくださいと言われたからやりますという感じだったが、この本（「はなぼん わくわく演出マネジメント」花井裕一郎著）を読んだら、自分でやりたい、やってあげたいと思うようになった。少しでも声を出さないとかいう人がいることを皆さん知らないかもしれないので、学びの館が新しく楽しいワクワクするものに生まれ変わるのを望んでいる。

**意見** 幡豆図書館に、幡豆よみきかせの会と幡豆しはとの会が手作りで作った大型紙芝居を2年位前に寄贈した。民話に関しての取材があったり、KATCHなどの放送局から依頼があった時に、いまだに会の方に問い合わせがある。会としては図書館に寄付したものであるから図書館の考えで動いていただければよい。幡豆図書館は委託職員だけなので本館に問い合わせする。よみきかせの会の皆さんがOKされたら使ってくださいという返事を本館でされたようだったので、それは本館の裁量で返事をしていただければよい。紙芝居を映像にする時があると思うが、私たちからは何とも言えないので、本館の判断でしていただき、本を使うときは幡豆町の時に作ったのが教育委員会の管轄だと思うので、どういうものに使うのかを聞いてもらい、本館の判断で返事をしていただければよい。

→ 紙芝居としては寄贈していただき使わせていただいているが、著作権の問題があるので、それを映像等で使うには著作権がある方の確認を必ず取るというのがこちらのスタンスなので、実際に会の方が著作権をお持ちだと思ってお聞きしていた。

**意見** そのあたりもお任せしたというつもりで寄贈した。

→ 営利的なものに使っていくということはないと思うが、使われる内容を吟味して、図書館として許可していいということではないか。

**意見** 図書館が何のために使うかを聞いてもらい判断してもらえればいいのかと思う。

→ はい、わかりました。

**意見** 西尾の図書館はいい本があるが、閉架書庫の本が圧倒的に多い。1階から3階のレイアウトを見たが、空いているスペースがある。閉架書庫をもう少しPRできるコーナーができないか。もったいない。閉架の特集コーナーみたいなものがないか。

→ はい。特集コーナーは考えてみます。

**意見** 検索すれば閉架にあるというのが分かるので出してもらえるが、借りる人が少ないからということで閉架に入ってしまった本は、何が閉架に入っているかというのがわからないので探しづらい。昔からのいい本が閉架に入ってしまうと少し寂しい。

**質問** 一色学びの館には閉架は無しということはないか。

→ いえ、あります。今までの閉架書庫の場所が開架になり、閉架は場所が変わる。

・部長あいさつ

会長により西尾市図書館協議会を閉会した。

